

～赤城南麓の大豪族の威勢～

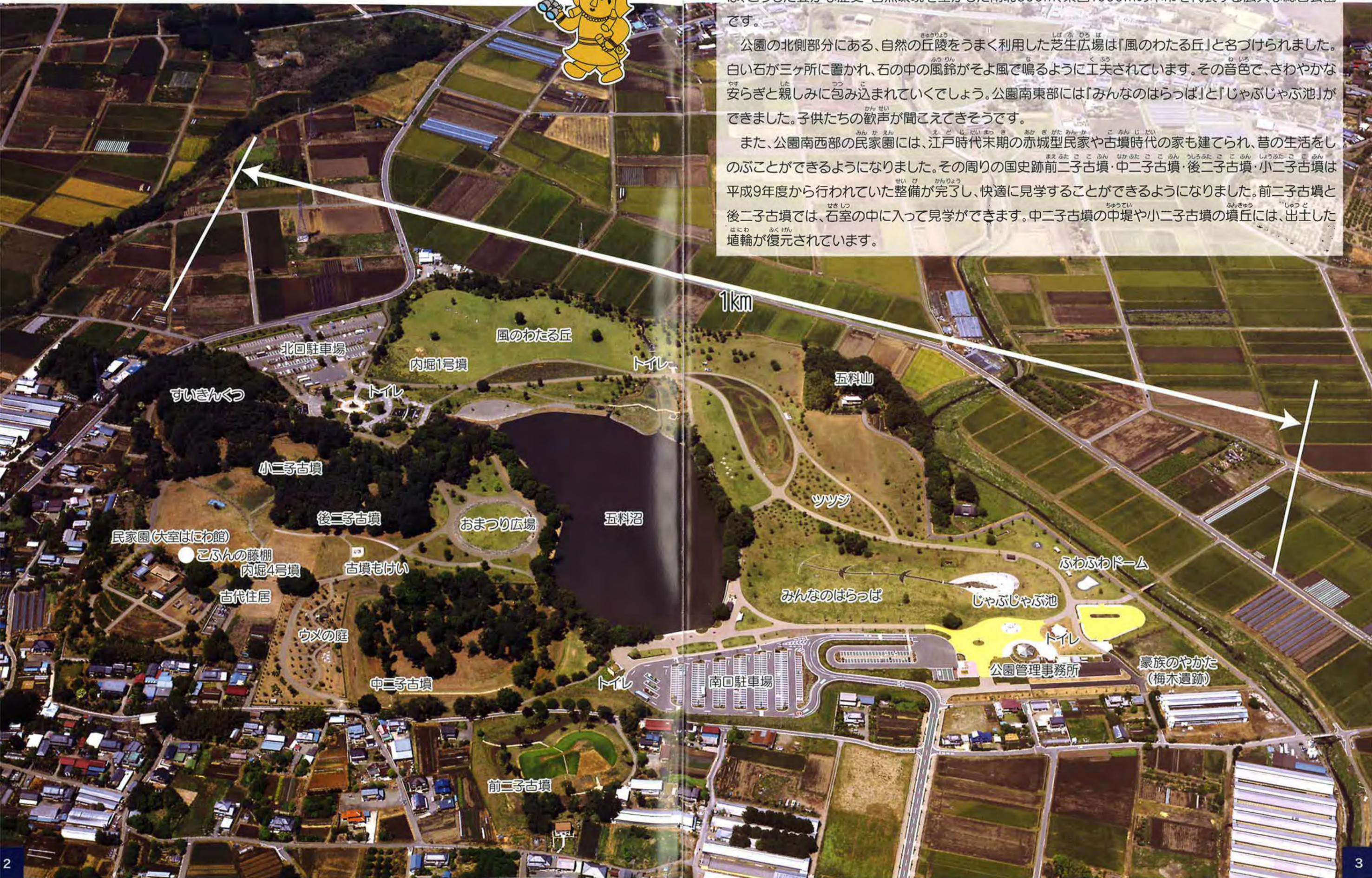
前橋市

大室古墳群

～前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳～



明治11年に描かれた三古墳



赤城南麓の中央にある城南地区は、雄大な赤城山の眺めが素晴らしい自然に恵まれた所です。また、群馬県内でも遺跡の多い地区であり、特に4つの二子山古墳など史跡もたくさん残されています。大室公園は、こうした豊かな歴史・自然環境を生かした南北500m、東西1000mの本市を代表する広大な総合公園です。

公園の北側部分にある、自然の丘陵をうまく利用した芝生広場は「風のわたる丘」と名づけられました。白い石が三ヶ所に置かれ、石の中の風鈴がそよ風で鳴るように工夫されています。その首色で、さわやかな安らぎと親しみに包み込まれていくでしょう。公園南東部には「みんなのはらっぱ」と「じゃぶじゃぶ池」ができました。子供たちの歓声が聞こえてきそうです。

また、公園南西部の民家園には、江戸時代末期の赤城型民家や古墳時代の家も建てられ、昔の生活をしのぶことができるようになりました。その周りの国史跡前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳は平成9年度から行われていた整備が完了し、快適に見学することができるようになりました。前二子古墳と後二子古墳では、石室の中に入って見学ができます。中二子古墳の中堤や小二子古墳の墳丘には、出土した埴輪が復元されています。



～歴史の小箱～ 大室公園の遺跡

大室公園内の遺跡の調査では、今から28000年前の旧石器時代の石器がたくさん発見されました。また、5000年前の縄文時代の住居跡も多数発見されています。この地区には古い時代から多くの人々の足跡が残されています。

今から1700年前(4世紀)の古墳時代の前半には家々が建ちならび、人々の生活が営まれました。家からやや離れた場所には、当時の人を葬った「周溝墓」も多数発見されました。

1500年前(6世紀)には赤城南麓を代表する豪族の墓が4基【前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳】まとめて造られました。また、豪族が住んだと推定される堀と柵で囲まれた大きな館【梅木遺跡】も発見されました。

なお、東に隣接する多田山丘陵には赤堀茶臼山古墳があります。昭和の初めに調査が行われ家形埴輪がまとめて出土しました。

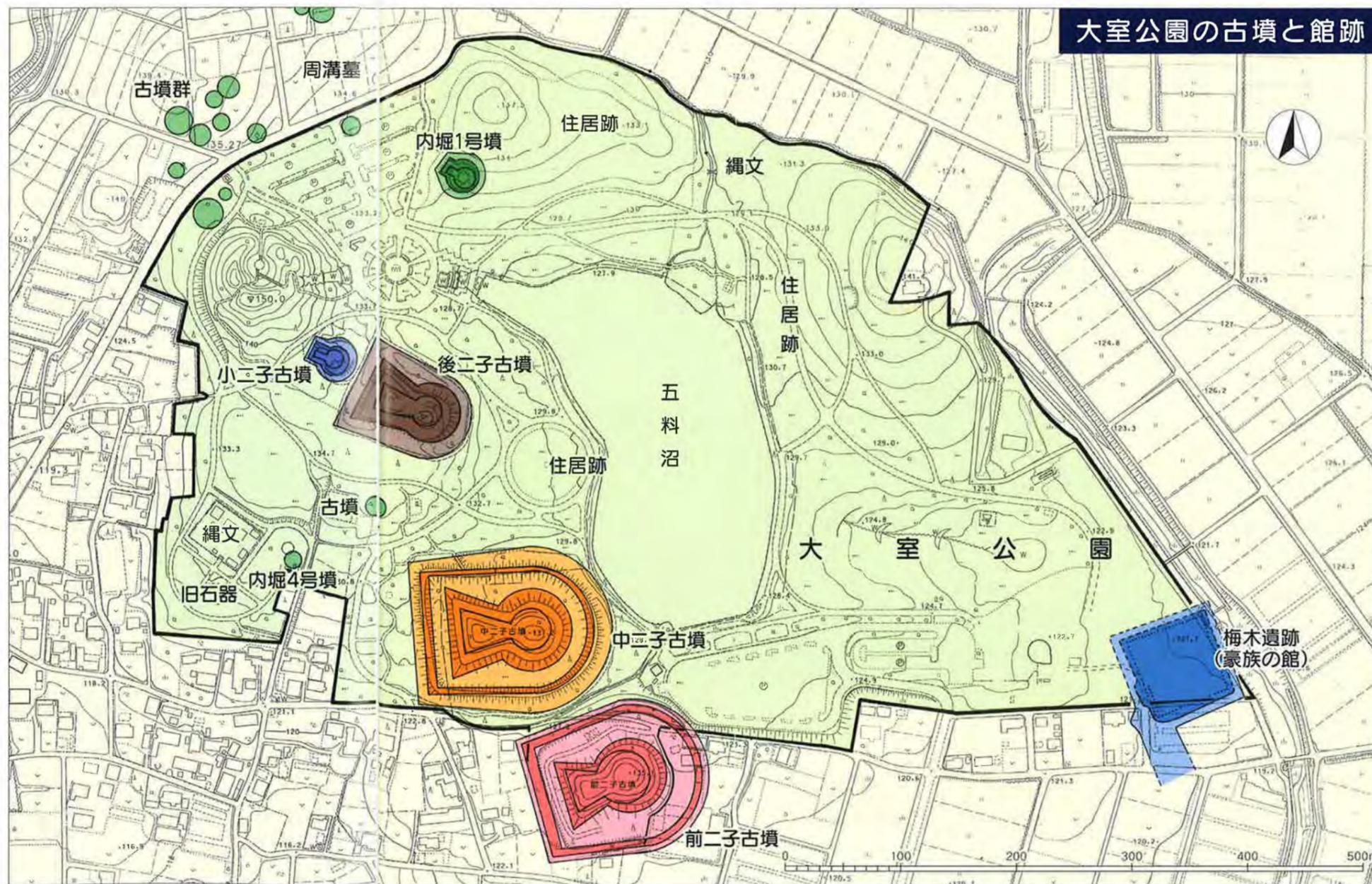
◆大室公園関係歴史年表

3万年前	旧石器時代	・磨かれた石斧やナイフ形石器を使い狩りや採集の暮らし ・改良されたナイフ形石器を使用(西大室町)
2.5万年前		
1.3万年前	縄文時代	・細石刃の使用(鶴ヶ谷町) ・土器と弓矢の発見(端気町)
5千年前		・貝塚が造られる ・狩りや採集の暮らし、住居も造られる
2千年前	弥生時代	・大きな集落が形成(高花台) ・稲作が開始される
3世紀	古墳時代	・古墳が造り始められる。 ・集落と周溝墓が造られる
4世紀		・仁徳天皇陵(大山古墳)の造成
6世紀		・赤堀茶臼山古墳 ・梅木遺跡(豪族の館)
7世紀		・前二子古墳 ・中二子古墳 ・後二子古墳 ・小二子古墳 ・大化の改新
8世紀	飛鳥時代	・大化の改新
	奈良時代	・平城京に遷都 ・赤城山南麓に大地震
17世紀	江戸	・五料沼や新堤沼が造られる
19世紀	明治	・明治維新 ・前・後二子古墳の石室開口(明治11年) ・アーネスト・サトウの調査(明治13年)
20世紀	大正	
	昭和	・太平洋戦争が終わる(昭和20年) ・大室公園で発掘調査の実施(昭和62年～平成8年)
21世紀	平成	・大室古墳群の整備(平成9年～16年) ・大室公園の開園
	未来	

※水色は大室公園開園事項

◆古墳比較表

古墳名	前二子古墳	中二子古墳	後二子古墳	小二子古墳	内堀1号墳	内堀4号墳
墳丘の形式	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	円墳
段築	2段(一部地山)	2段(一部地山)	2段(一部地山)	2段(一部地山)	2段(一部地山)	2段(一部地山)
主軸	N-70° -E	N-89° -E	N-110° -E	N-131° -E	N-124° -E	N-4° -W
外部施設	周堀・外堤・外周溝	内堀・中堤・外堀	周堀	堀	堀	堀
墳丘規模	墳丘長さ 94m 前方部幅 65m 後円部径 69m 墳丘高さ 14m	111m 79m 66m 15m	85m 60m 48m 11m	38m 18m 30m 5m	35m 18m 26m 3m	20m(墳丘径) - - -
兆域	全幅長さ 148m 幅 127m	170m 138m	106m 80m	44m 39m	37m 39m	27m -
葺石	約15,900㎡	約21,000㎡	約7,000㎡	約1,225㎡	約1,220㎡	約550㎡
石室	形態 両袖形横穴式石室 長さ 13.8m 最大幅 2.0m 最大高 1.8m	横穴式石室? -	両袖形横穴式石室 9.0m 2.7m 2.2m	袖無形横穴式石室 6.0m 1.8m 1.8m	両袖形横穴式石室 約5.8m 約2.5m -	袖無形横穴式石室 3.5m 1.4m -
円筒埴輪	4条突帯	4条と5条突帯	2条と4条突帯	2条突帯	2条と3条突帯	2条突帯
時期	6世紀初頭	6世紀前半	6世紀後半	6世紀後半	6世紀後半	6世紀後半



大室公園の古墳と館跡

明治11年に石室が調査されました。狭くて長い石室は、まるで黄泉の国への入り口です。石室からは土器、装身具、鏡、金メッキされた馬の飾り金具などの副葬品が出土しました。詳しい調査記録から、副葬品の配置状態や日本全国から6000人にもものぼる見学者があったことを知ることができます。さらに、明治13年に英国外交官アーネスト・サトウが調査に訪れました。

今回の調査によって周堀のほかに外堤と外周溝があり上段墳丘に葺石があることがわかりました。従来から門や扉があり複雑な構造とされた横穴式石室は、床面に加工された凝灰岩が敷かれ、「べんがら」によって赤く塗られていることがわかりました。

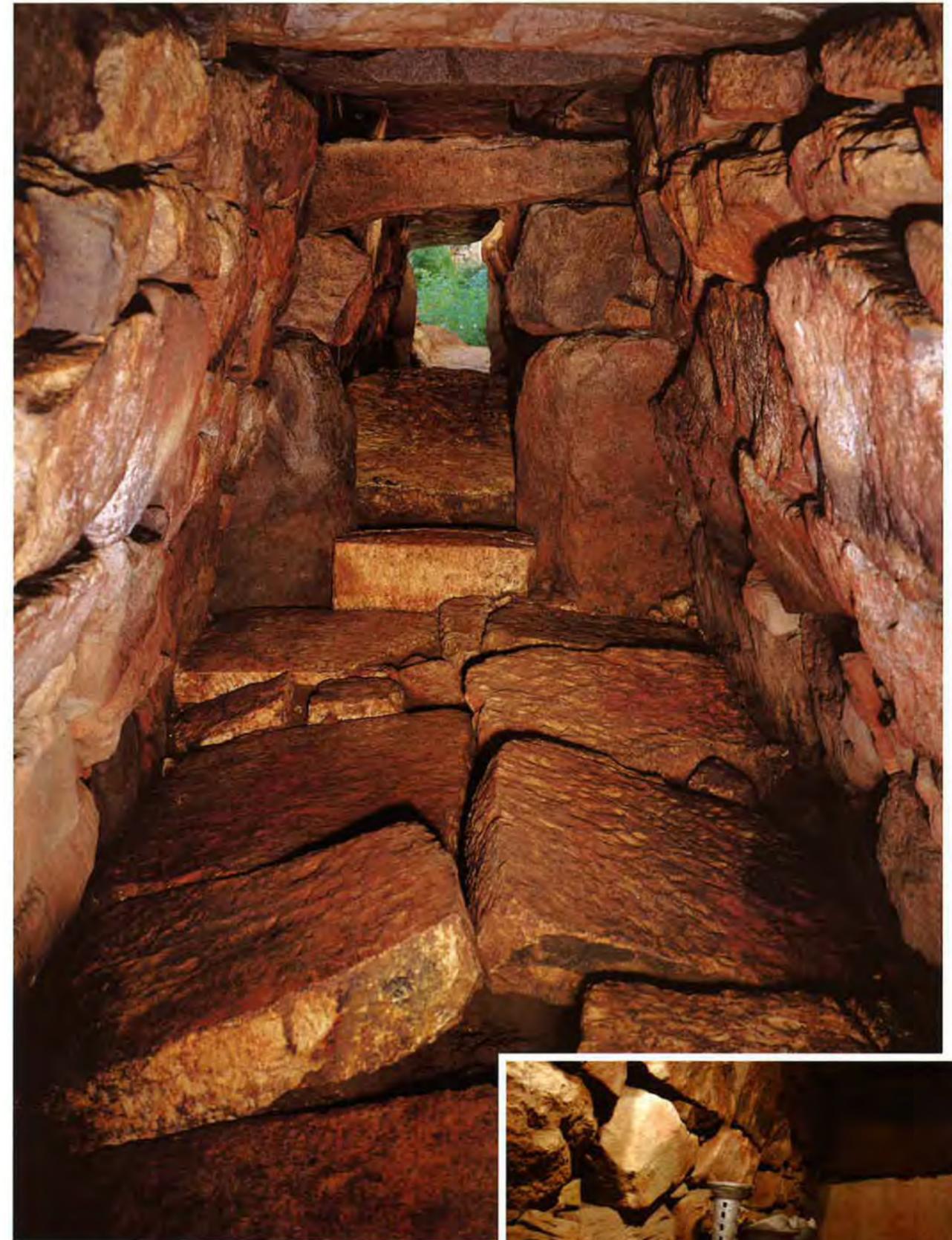
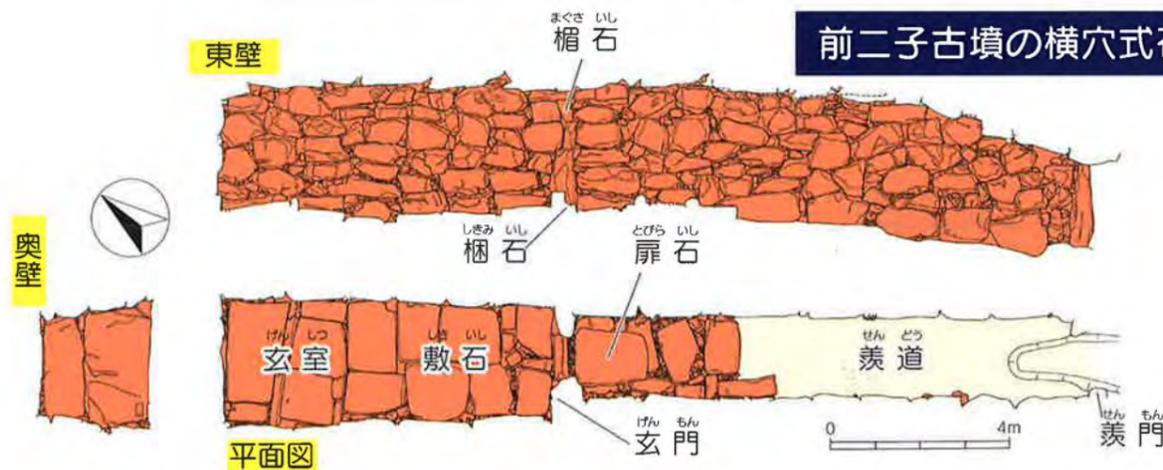
また、円筒埴輪は大室古墳群の中で最も大きなものです。さらに杖形埴輪(石見型埴輪)は遠く離れた奈良県のもものと良く似ています。

出土遺物には従来「四神付飾土器」と呼ばれた装飾器台(須恵器小像付筒形器台)があります。朝鮮半島の南部のものと同じ小像が付けられています。

前二子古墳



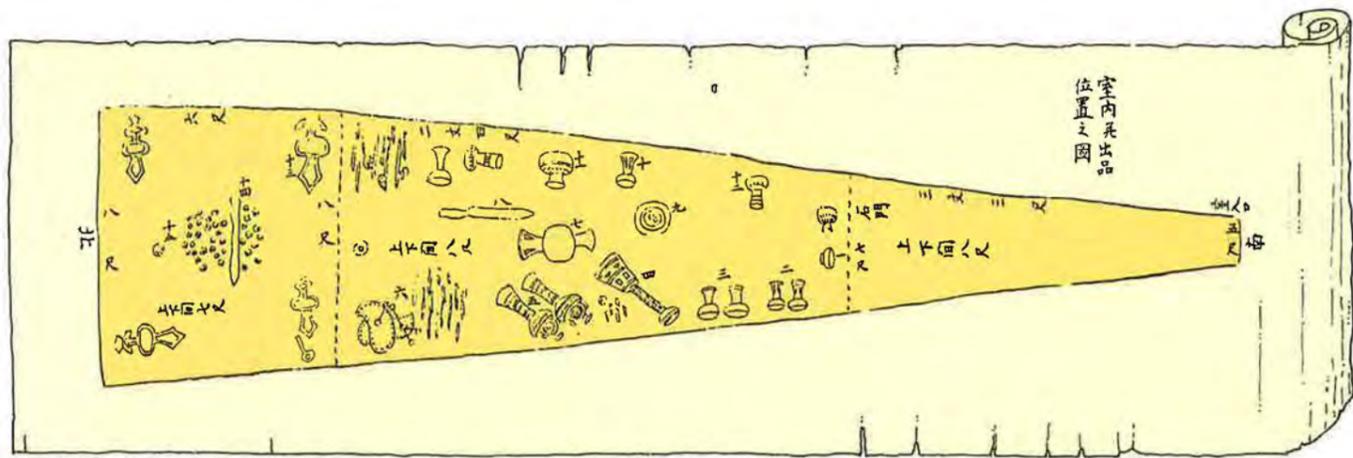
前二子古墳の横穴式石室



◆石室(奥から)



◆石室内に配置された制作品



◆「古制徴証」(明治11年)に描かれた前二子古墳石室の内部の様子



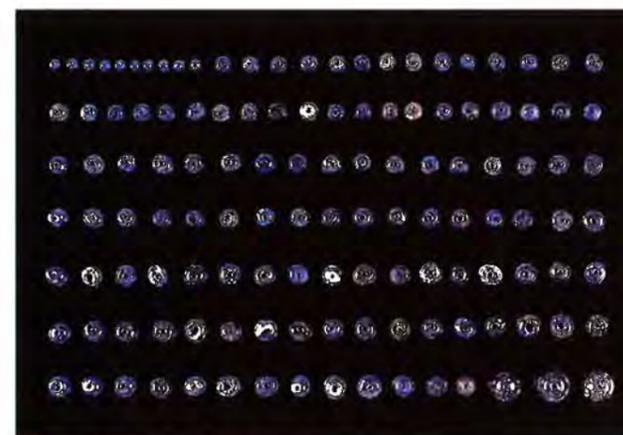
◆石室に副葬された土器(左より土師器高杯4個・須恵器甕・直口壺・台付壺・裝飾器台・高杯形器台と埴瓶2組)



◆墳丘に立てられた埴輪(円筒埴輪と杖形埴輪(石見型埴輪))



◆須恵器裝飾器台実測図
加藤竹斎によるスケッチ



◆石室に副葬された装身具(青色ガラス製丸玉)



◆石室に副葬された装身具
(左上:銀製空玉・上中:金環・右上:管玉、白玉・中:緑色、黄色のガラス製小玉・下:水晶製丸玉)



亀

鳥

蛇と蛙

小像の剥落痕

◆須恵器裝飾器台の小像(展開写真)



Q. どうして大室公園の古墳は二子山古墳っていうの？

A. 古墳にはいろいろな形をしたのがあります。円い形の『円墳』、正方形の『方墳』、帆立貝のような『帆立貝式古墳』さらに方形と円形をつなぎ合わせたような『前方後円墳』などがあります。前方後円墳を横から眺めたその姿がひょうたんの形から二子山という名がつけました。

前方後方墳	前方後円墳	帆立貝式古墳	円墳	方墳

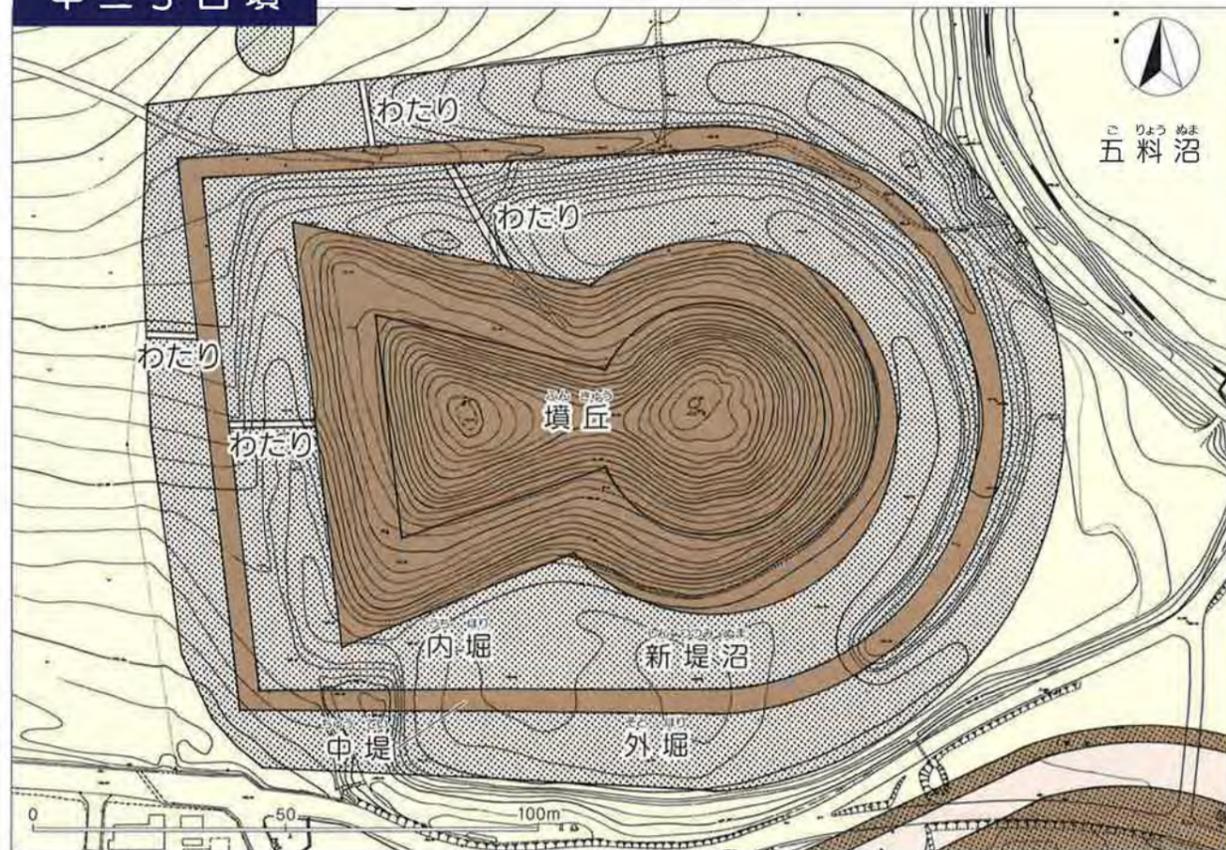
中二子古墳は、大室古墳群の中で最も大きく立派な古墳です。今回の調査で、内堀や中堤、外堀が全周し、墳丘や中堤は葺石で覆われ、内堀に工事や儀式の時に通った「わたり」が存在することがわかりました。

かつて中堤は新堤沼を造るため、南側を大きく削りとられてしまったため、その部分を復元して中堤が一周している様子を再現しました。復元された中堤の上には、古墳を外敵から警護するために立てられた盾持人形埴輪と円筒埴輪が、密接して並べられた様子も復元されています。

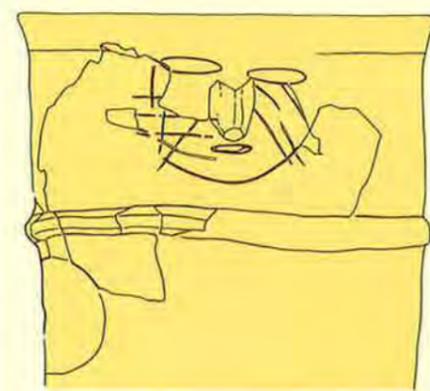
この古墳からは、たくさんの埴輪が出土しましたが、その中から、円筒埴輪に人の顔が小さく表現された珍しい埴輪がみつかりました。日本全国でも数例しかないものです。また、形象埴輪のほとんどと円筒埴輪の一部に、海綿骨針の化石と結晶片岩の砂粒が入ることから、藤岡周辺で製作された埴輪が運ばれてきたと考えられます。

中二子古墳では、石室が見つかりません。どのような石室に、どのような副葬品が納められているかという謎が残されています。そこで、この古墳は墳丘に立ち入らず、外から見学するようにしてあります。いつの日かその謎が解明される時がくるかもしれません。

中二子古墳



墳丘の断面図



◆線刻人面付円筒埴輪実測図



◆線刻人面の付いた円筒埴輪



◆墳丘や中堤に立てられた形象埴輪(左より靫・盾持人・線刻人面付円筒埴輪・盾持人3個・靫)



◆中堤に再現された円筒埴輪と盾持人形埴輪

後二子古墳の石室も前二子古墳と同様に明治11年に開けられました。今回の調査によって、築造方法にいくつかの工夫がなされていることがわかりました。地中を掘って石室を低く造ることで墳丘の盛土を節約しています。また、石室が低いために地面を掘った通路(墓道)により出入りが行われました。「前庭部」には、儀式に使われた煮炊きの跡や土器がまとまって出土した様子が復元されています。

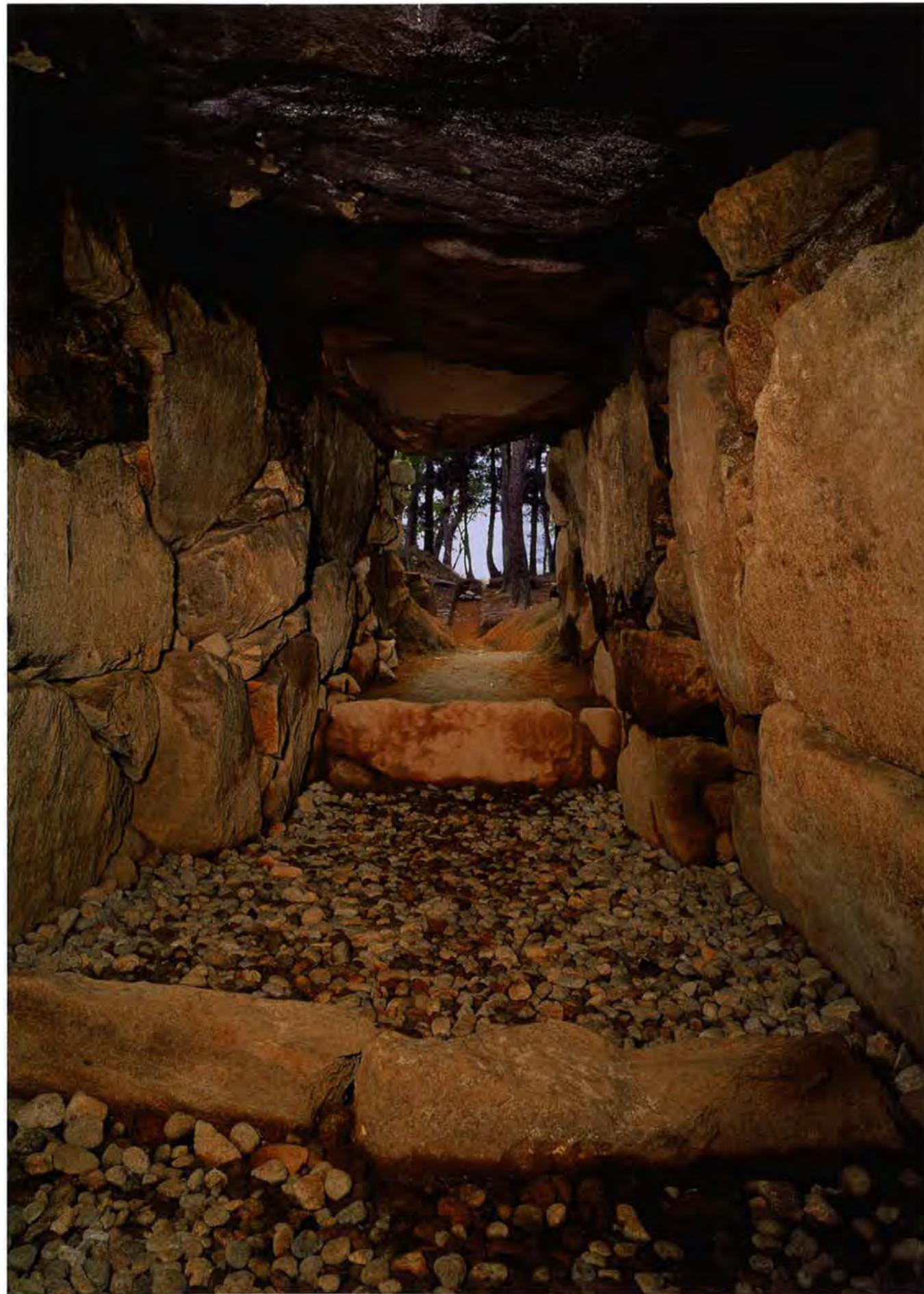
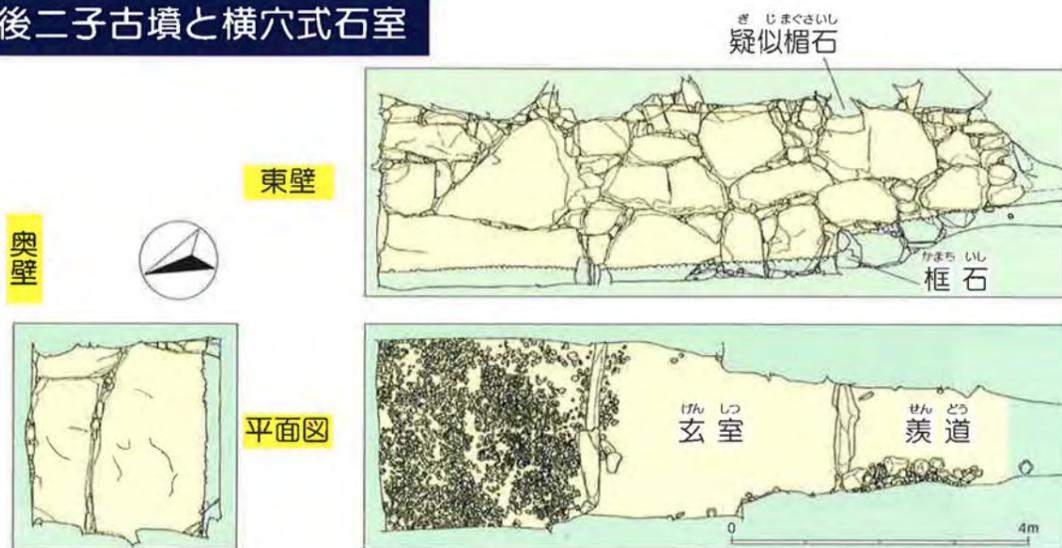
石室は南に開きますが、古墳は北側から見た方が大きく立派に見えます。円筒埴輪も、石室の前に復元されているように南側は小さな埴輪が間隔をあけて使われていましたが、北側には大きな埴輪が設置されていました。

また、円筒埴輪に「親子猿」や「犬」の小像が付けられていました。形象埴輪のうち馬形埴輪は、大阪府四天王寺宝物館にある「人が乗る馬形埴輪」と同じ制作者の埴輪であることがわかりました。

後二子古墳と小二子古墳



後二子古墳と横穴式石室



◆奥(玄室)からみた石室内部と墓道



◆親子猿の小像



◆小像の付いた円筒埴輪

下の拓本の
剣菱形杏葉



◆大阪府四天王寺宝物館の「人が乗る馬形埴輪」



◆前庭部で使用された土器(左より須恵器高杯・甕・高杯・土師器杯・鉢・甕)



1 四天王寺埴輪馬の
剣菱形杏葉(右側)



2 四天王寺埴輪馬の
剣菱形杏葉(左側)



3 後二子古墳絵馬の
剣菱形杏葉(左側)

◆埴輪馬の杏葉



◆復元された後二子古墳



～埴輪デパート～ 国指定史跡 小二子古墳

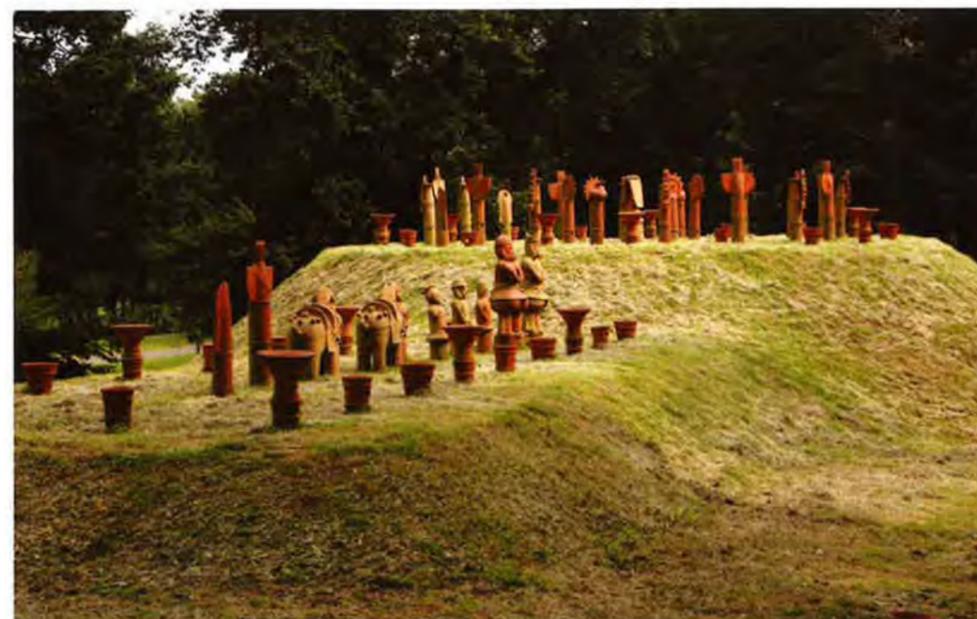
小二子古墳は、全長38mと小規模ながらも、2段築成の前方後円墳です。この古墳は流れ山と後二子古墳に挟まれたせまい空間に造られています。後二子古墳と同時期に方向を揃えて造られていることから、後二子古墳とかかわりの深い人物の墳墓であると考えられます。

石室は、石を抜き去られたために破壊を受けていました。さいわい入り口部分は、壊されずに残っていて、石室のふさいだ状態がよくわかりました。石室の前からは、墓前祭祀に用いた土器や火を燃やした跡が見つかりました。こうした様子が復元されています。

小二子古墳からはたくさんの埴輪が発見されました。人物・馬・家・大刀などの形象埴輪や円筒埴輪は、大きく後円部と前方部の2つのグループに分けられ、設置されています。



◆発掘調査によって解明された石室の様子(南から)



◆復元された小二子古墳全景



◆市民ボランティアによって制作されたガラス玉



◆市民ボランティアによって制作された馬具と鏡、ガラス玉



◆土器のおさめの式(前二子古墳)



◆土器制作の完成を記念した講演会
(講師:白石太一郎顧問、総合福祉会館にて)



◆埴輪の窯だし
(鼻毛石町一心窯:主宰・石井政幸)



◆冠制作の完成を記念した講演会
(講師:右島和夫委員、総合福祉会館にて)

1500年前に造られた国指定史跡前二子古墳の石室に、開口時に副葬されていた土器、金属製品、装身具を市民ボランティアの手で復元することにより、史跡への関心を高め、市民の目線で歴史遺産の活用を図ることを目的として、「前二子古墳石室復元市民プロジェクト」事業を実施しました。

- 平成18年 前二子古墳石室に副葬された土師器・須恵器の復元
- 平成19年 前二子古墳石室に副葬された馬具・杏葉、鏡板の復元
- 平成20年 前二子古墳石室に副葬された玉と鏡の復元
- 平成22年 前二子古墳と日韓筒形器台の復元
- 平成23年 金冠塚古墳石室に副葬された金銅冠の復元
- 平成24年 前二子古墳の杖形埴輪と四天王寺宝物館の馬形埴輪等復元



◆装飾須恵器制作風景 (民家園主屋)



◆こぶんの藤棚製作風景 (民家園の北)



◆須恵器窯出しを終えて (鼻毛石町一心窯)

平成26年度から「大室古墳の教室」事業を開始しました。大室公園民家園の主屋や離れを使って、小学生夏休み考古学教室では勾玉、埴輪、馬具、鏡づくりを開催、考古学講座では、赤城南麓で発掘調査された遺跡や発見された遺物をテーマとした解説を行いました。体験事業では、須恵器や馬具づくりを通して、ものづくりの楽しさを味わっていただくとともに地域の歴史を深く知ることができました。民家園土蔵を改装して開設した「大室はにわ館」には、「前二子古墳石室復元市民プロジェクト」に参加した市民ボランティアの皆さんの手による制作作品が展示されています。また、ボランティアの皆さんの協力で民家園の北に藤棚を設置しました。公園散策のひとときの憩いの場として使っていただくほか小学生の体験学習の場として活用します。



◆大室はにわ館1階の展示（民家園土蔵）



◆大室はにわ館1階の展示（民家園土蔵）

民家園の土蔵を改装した「大室はにわ館」がオープンしました。大室古墳群を見学しながら市民ボランティアの皆さんが制作した埴輪や土器を見学していただき、古墳への理解を深めていただきたいと思います。1階展示場には4頭の馬形埴輪や人面が付いた埴輪、王様の杖をかたどった石見型埴輪、前二子古墳の石室副葬品が飾ってあります。また、前二子、中二子、後二子、小二子古墳から出土した円筒埴輪も飾ってあります。2階には韓国と日本各地から出土した筒形器台復元品や大室公園内の発掘調査で出土した石器や土器も飾ってあります。また、東京福祉大学柴田研究室制作の教材「3D映像で見る大室古墳群」の放映や土偶やお面作りなどの体験学習コーナーもあります。



◆大室はにわ館2階の展示（民家園土蔵）

4二子古墳の他にも… 大室いろいろ

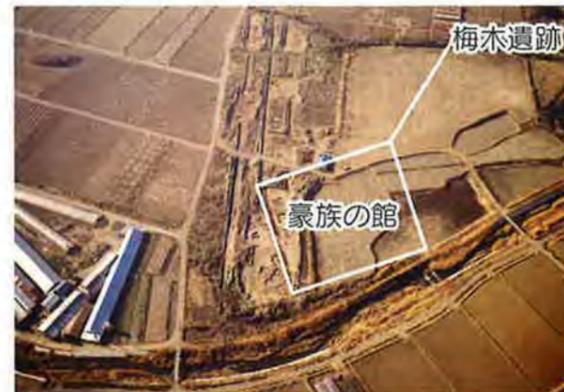
■内堀4号墳の馬形埴輪

～さまざまな馬具をつけた飾り馬～

大室公園の民家園の近くに復元されている内堀4号墳からは、立派な馬の埴輪が2個体出土しました。馬にはくつわや鞍などの飾りがつけられています。



内堀4号墳の馬形埴輪



梅木遺跡航空写真

■梅木遺跡～豪族の館～

梅木遺跡は大室公園の南東隅、前二子古墳から東に約500mのところにあります。この遺跡からは堀と柵列で区画された館跡が見つかりました。すぐ東側を流れる桂川の氾濫によって主要な部分は削られてしまいましたが、堀の一边は外側で約85m、面積約7200㎡の正方形と推定されます。火山灰(Hr-FA・6世紀初頭に降下)が堀の底に堆積していたことから、この館は5世紀後半に造られ、6世紀初頭まで使われたと考えられ、前二子古墳に葬られている人物との関係がうかがえます。

周辺ガイド 大室付近の古墳

■赤堀茶白山古墳

～豪族の館を模した家形埴輪群～

大室公園の東の丘陵上に位置する前方後円墳です。全長約70mで5世紀中頃造られたと考えられています。後円部から家形埴輪などの埴輪類、埋葬施設から鏡や鉄器・玉類などが出土しています。



赤堀茶白山古墳出土の家形埴輪群
(東京国立博物館所蔵)



唐三彩陶枕(群馬県埋蔵文化財調査センター所蔵)

■多田山12号墳～唐三彩出土～

大室公園の東にある多田山は、前橋市と伊勢崎市の境に位置しています。平成9年から13年にかけて住宅団地造成に伴い調査が行われ、21基の古墳が調査されました。12号墳から出土した唐三彩の陶枕は、全国的にも珍しい貴重な遺物です。これは現在、群馬県埋蔵文化財調査センターに展示されています。

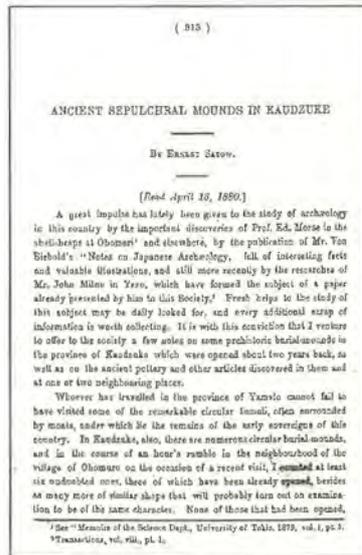


The Comuro Park

明治11年・石室開口

明治11年3月24日前二子古墳の石室開口、翌3月25日～4月1日綿密な発掘調査を実施。明治11年4月から明治12年6月まで前二子古墳石室副葬品が公開され全国から5179名の見学者。明治13年3月、英国外交官アーネスト・サトウが前二子古墳調査の目的で前橋を訪れました。

県内		県外	
前橋	160	埼玉県	319
高崎	16	栃木県	162
群馬郡	262	茨城県	5
勢多郡	1,836	千葉県	2
片岡郡	0	神奈川県	7
那波郡	282	東京都	17
碓氷郡	32	山梨県	2
甘楽郡	40	長野県	14
多胡郡	14	新潟県	13
緑埜郡	1	福島県	2
佐位郡	1,081	石川県	3
利根郡	41	愛知県	1
吾妻郡	13	滋賀県	1
山田郡	355	小計	548
新田郡	272	合計	5,179名
吾妻郡	47		
不明	179		
小計	4,631名		



◆地域別前二子古墳古器物見学者数一覧
(明治11年4月～12年6月)

◆大室に訪れた英国外交官
アーネスト・サトウ(1843-1929)

◆アーネスト・サトウ著「上野地方の古墳群」
『日本アジア協会紀要』第8巻第3号1880

案内図



おおむらつか 大室古墳の語り部による 古墳解説案内

大室古墳群市民ボランティアにより大室古墳群をやさしく解説しながらご案内いたします。

- ◆定例案内
日時 5月～11月各月1回土曜日を予定
(広報まえばしに掲載します)
受付 9:30～11:00 (1名でも参加可能)
所要時間: 1～2時間
- ◆その他
グループや団体などの解説は随時受付ています。
文化財保護課 (027-280-6511) まで電話で。

交通のごあんない

- ◆JR前橋駅から大室公園行き
日本中央バスで約50分
- ◆北関東自動車道 波志江スマートI.C
から約3.6km(車で10分)
- ◆北関東自動車道 伊勢崎I.Cから
約5km(車で10分)
- ◆上毛電気鉄道 大胡駅から
タクシーで約10分
- ◆JR両毛線 伊勢崎駅から
タクシーで約20分

前橋市

大室古墳群

— 前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳 —

編集 前橋市教育委員会事務局文化財保護課
〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11-4
TEL 027-280-6511 FAX 027-251-1700
発行 前橋市教育委員会
発行日 2016年6月11日 第12刷